

9条記す手作り看板

危機感抱き掲げる

日本国憲法が公布された11月3日にあわせて、元薬店「井谷屋」経営・松井正之さん(72)と永平寺町松岡神明1丁目IIが、憲法9条を記した手作り看板を店舗前に設けた。

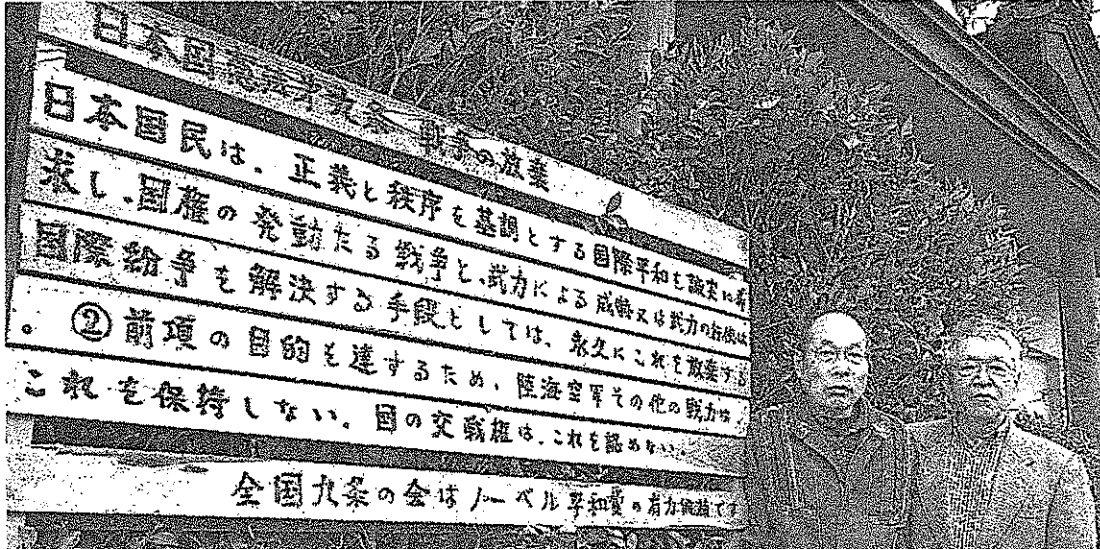
永平寺・松井さん

松井さんは、昨春に発足した永平寺九条の会の「言い出しっぺ」でもある。作家井上ひさしさんら9人がつくった九条の会に感銘をうけ、松井さんが資料を取り寄せたことが結成のきっかけとなった。

現在の呼びかけ人は50人を超えている。

以来、松井さんら永平寺九条の会は「基本的人権の尊重」「平和主義」「国民主権」の3大原則をかかげる憲法を生かそうと様々な行事をしてきた。

「戦争の放棄」「戦力不保持」「交戦権否認」



手作り9条看板を立てた松井正之さん(左)と、材料を調達した村国明雄さん(右)永平寺町

一方で、安倍政権は、武器輸出三原則撤廃・集団的自衛権行使容認の閣議決定・特定秘密保護法・安全保障関連法と、九条の会が反対する施策を相次いで出してきた。松井さんは「平和国家の土台を揺るがす」と強い危機感を抱いている。永平寺九条の会事務局長で近所の村国明雄さん(77)が木材店からもらってきた杉の廃材を使って看板を作った。「戦争の放棄」「戦力不保持」「交戦権否認」を筆ペンで書き写し、「ノーベル平和賞の有力候補です」も下段に書き添えた。

目にした人が「これは何」と聞いてくるといふ。松井さんは「多くの人が憲法の内容を知らない。戦争法反対や安倍政権批判もいけれど、まずは日本にはこういう憲法があると知って欲しい」と話している。(下地毅)

1/4 朝日